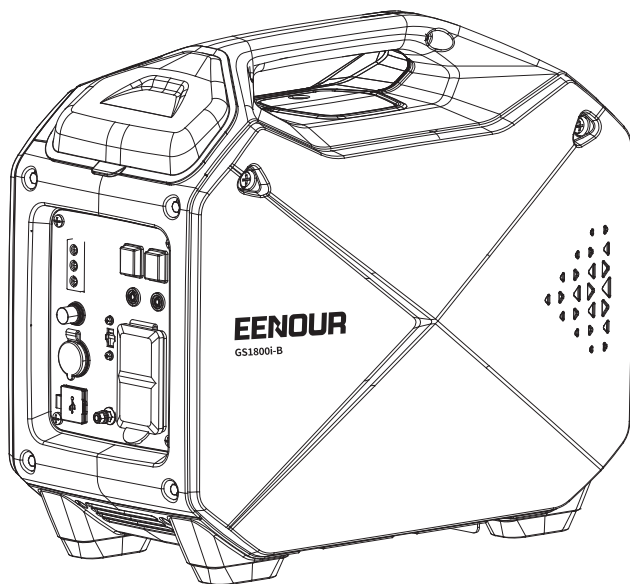


# EENOUR



**EENOURインバーター発電機GS1800i-B  
取扱説明書**






# はじめに

このたびはEENOURインバーター発電機GS1800i-Bをお買い上げいただき誠にありがとうございます。

安全に正しくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

## 安全に関する表示について

本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記表示を使って記載し、その危険性や回避方法を説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

 危険	人が死亡または重傷などを負う可能性が高いと考えられる内容です。
 警告	人が死亡、または重傷などを負う可能性が想定される内容です。
 注意	人が損傷を負う可能性および物的損害の発生が想定される内容です。
 禁止	取扱においてその行為を禁止します。
 指示	指示に基づく行為を強制します。

この取扱説明書は、仕様変更等によりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

# 目次

安全にお使いいただくために -----	1~2
各部の名称と取り扱い -----	3~6
・各部の名称 -----	3
・コントロールパネル部 -----	4
・各部の取り扱い -----	5~6
運転前の準備 -----	7~9
・エンジンオイルの給油 -----	7
・エンジンオイルの量の確認 -----	7
・カセットポンベの取付け -----	8
・本機周辺の点検 -----	9
発電機のかけ方 -----	10
・エンジンの起動 -----	10
・エンジンの停止 -----	10
電気の取り出し方 -----	11~12
・AC電源 -----	11
・DC電源 -----	11
・USB電源 -----	12
・並列運転 -----	12
点検・整備の仕方 -----	13~15
・定期点検表 -----	13
・エンジンオイルの交換 -----	13
・点火プラグの点検と清掃 -----	14
・マフラーキャップの清掃 -----	14
・エアクリーナエレメントの清掃 -----	15
運搬・保管の仕方 -----	16
・運搬の場合 -----	16
・一時保管の場合 -----	16
・長期保管の場合 -----	16
不具合時の対応 -----	17
仕様諸元 -----	18
配線図 -----	19
保証期間およびお問い合わせ -----	20
保証書 -----	21

# 安全にお使いいただくために

運転、保守、点検の前に必ずこの取扱説明書、および商品本体に貼付されているラベル全てを熟読し、正しくご使用ください。商品の知識、安全の情報そして注意事項の全てに習熟してからご使用ください。

## 危険

**⊘ 車内、テント内、倉庫など室内および換気の悪い場所では運転しない**  
エンジンの排気ガスには一酸化炭素など有害な物質が含まれているため、ガス中毒を起こす原因となります。

**⊘ 屋外でも以下のような場所で運転しない**

- ・ベランダなどの窓や、玄関の近く
- ・テントの近く
- ・ガレージの近く
- ・温室／ハウスの近く

排気ガスが流入し、一酸化炭素中毒で死亡するおそれがあります。

**① 燃料取扱時には火気厳禁**

カセットボンベの取付け、取外しを行うときや、カセットボンベの付近では、タバコを吸ったり、炎や火花などの火気を近づけないでください。カセットボンベはエンジンを止めてから交換してください。カセットボンベへの引火や火災の原因となります。

**⊘ 本機付近に障害物や危険物、燃えやすい物を置かない**

建物およびその他の設備から1m以上離して設置してください。火災や故障の原因となります。

**⊘ 本機の周りにガソリン、または危険物や燃えやすい物を近づけない**

本機から出る排気ガスは熱くなります。本機や本機に接続された電気機器に損傷を起こすだけでなく、思わぬ事故を起こす原因となります。

**⊘ 電力会社からの電気配線には絶対接続しない**

本機や接続の電気機器を故障させたり、火災あるいは人身事故の原因になります。

**⊘ 雨の中や水のかかる場所では使用しない**

雨や水で濡れた発電機や接続の電気機器を使用したり、また濡れた手で操作すると感電するおそれがあり危険です。

# 安全にお使いいただくために

## 危険

### 本機を分解、修理、改造しない

取扱説明書に記載されている以外の分解や修理・改造は絶対に行わないでください。異常動作してけがをする、また本機や本機に接続された電気機器が故障する原因となります。

### エンジンを始動させる前に必ず運転前点検を行う

人身傷害や機械の破損を防止することができます。手や足をはさんだり、思わぬ事故が起きる原因となります。

### 保管前にはカセットボンベを抜き取る

本機を使用しない場合は、カセットボンベを必ず取り出して専用のキャップを付け火気や直射日光(室内や車中の窓際など)を避けて、風通しが良く湿気の少ない気温が40℃未満の場所に保管してください。

### 点検や清掃時は必ずエンジンを停止する

エンジン停止直後のエンジン本体や排気口などは非常に熱くなっています。やけどをしないように、各部が十分に冷えてから作業を行ってください。

## 警告

### 熱くなっている排気口やエンジン各部をさわらない

やけどの原因となります。

### 本体に直接砂ぼこり、粉じん、煤煙などがかかる場所では使用しない

エンジン部品の早期摩耗の原因となります。始動時や運転中は、高圧コードや点火プラグ、点火プラグキャップに触れない感電の原因となります。

### エンジン部や排気口部が十分に冷えるまで、本機にカバーを掛けない

火災の原因となります。

### 発電機は平坦で堅い場所に置いて使用する

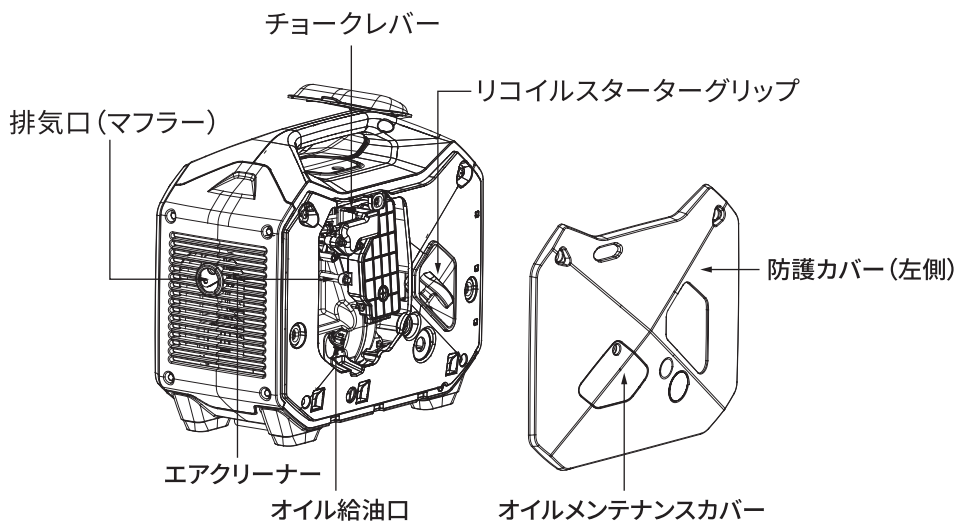
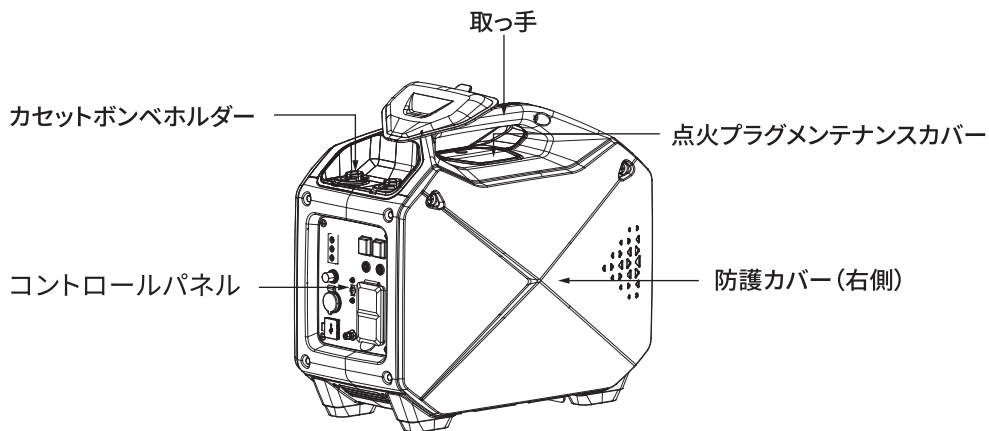
小石、土、砂利などで凸凹していたり、軟かい所や傾斜地では使用しないでください。発電機が転倒し、本機や接続の電気機器が故障を起こすだけでなく、思わぬ事故を起こす可能性があります。

### 運搬、保管、運転時のいずれも本機が落下、横倒、破損などしないよう水平を保つ

エンジンが故障したり、エンジンオイルがあふれたりする場合があります。特に運搬時には転倒しないようロープなどでしっかり固定してください。

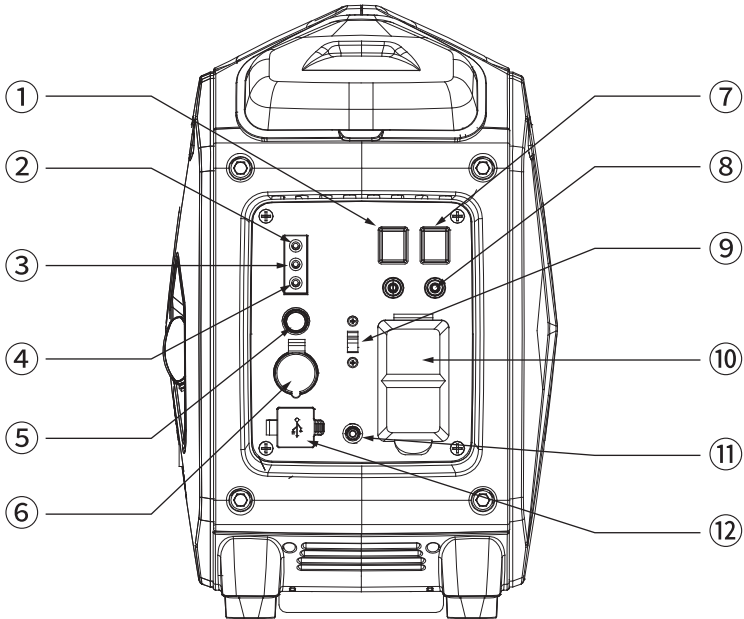
# 各部の名称と取り扱い

## 各部の名称



# 各部の名称と取り扱い

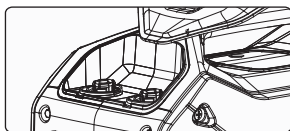
## コントロールパネル部



① エコスイッチ	② 出力表示灯	③ 過負荷警告灯
④ オイル警告灯	⑤ DCプロテクタ	⑥ シガーソケット 12V
⑦ エンジンスイッチ	⑧ 並列運転端子	⑨ 周波数切替スイッチ
⑩ AC出力コンセント 100V	⑪ アース端子	⑫ USBポート 5V

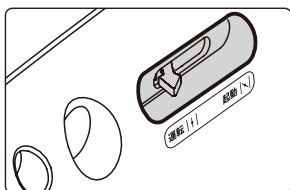
# 各部の名称と取り扱い

## 各部の取り扱い



### 1.カセットボンベホルダー

カセットボンベをセットできるカセットボンベ受け口です。  
カセットボンベのセット方法は「カセットボンベの取付け」  
※P8を参照してください。



### 2.チョークレバー

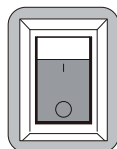
エンジンに入る空気量を調整し、エンジンを始動させる際に使用します。

・起動: 始動に必要なガスと空気量に調合できる位置です。

・運転: エンジンに入る空気量を広げた運転時の位置です。

注意: エンジンが冷えている状態からエンジンをかける時は「起動」の位置します。ただしエンジンが暖まった後の再始動時や環境温度が高い時は直接[運転]の位置にします。

### エンジンスイッチ



ON

OFF

### 3.エンジンスイッチ

点火系統を制御しエンジンの始動、停止を行います。

ON (運転): 本機の起動、運転時の位置です。

OFF (停止): 本機の停止や保管時、運搬時の位置です。



出力表示灯



過負荷警告灯



オイル警告灯

### 4.出力表示ランプ・過負荷警告ランプ・オイル警告ランプ

・出力表示ランプ (緑): 発電が始まると点灯します。インバータが使用可能であることを示します。

・過負荷警告ランプ (赤): 発電中に使用電気機器に異常があった場合や、過負荷のときに出力表示ランプが消え過負荷警告ランプが点灯し、電気が取らせなくなります。

・オイル警告ランプ (赤): 本機にはオイルが少ない場合に自動的にエンジンが停止するオイルアラート機構が内蔵されています。エンジンオイルが不足し焼付きが起る前にこの機構が働き、エンジンを停止させオイル警告ランプが点灯します。

60



Hz



50



### 5.周波数切替スイッチ

周波数の切り替え (50Hz⇔60Hz) を行うスイッチです。

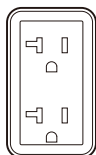
エンジンを始動する前に、接続する電気機器に合わせて周波数を切り替えてください。エンジン運転中に周波数を切り替えることができません。



# 各部の名称と取り扱い

## 各部の取り扱い

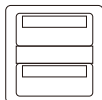
AC出力コンセント



### 6.AC出力コンセント 100V

AC出力コンセントから交流100Vの電気機器に給電可能です。  
AC出力コンセントで使用する電気機器の合計消費電力が、本機の定格出力以下であることを確認してください。

USBポート



### 7.USBポート 5V

USBポートからスマホ、タブレットなど直流5VのUSB機器に充電できます。

シガーソケット



### 8.シガーソケット 12V

シガーソケットから車バッテリー、車載冷蔵庫などの直流12Vの車載用電気機器に給電できます。

### 9.DCプロテクタ

シガーソケットの温度がDCプロテクタ(過熱保護装置)に設定された温度を超えた時にDCプロテクタボタンが飛び出して“断”になり、電気が取らせなくなります。接続配線に異常がないか、また電気の取出し過ぎがないか確認してからDCプロテクタを“入”にします。



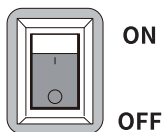
DC プロテクタ

### 10.エコスイッチ

・ON(作動):エコモードを使用します。電気機器を使用すると自動的にエンジンは電気の使用量に応じたエンジン回転数となり、電気機器を使用しないときは自動的に低速運転になります。燃料消費と騒音を減らします。

・OFF(解除):エコモードを使用しません。電気機器の使用の有無にかかわらず、エンジンは定格回転で運転します。

エコスイッチ



### 11.並列運転端子

並列運転をする時に並列接続コードを差し込む端子です。指定の並列接続コード(別売り)を使用してください。お買いあげの販売店にご注文ください。

並列運転端子



### 12.アース端子

感電防止のアース線を取り付ける端子です。本機に接続する電気機器がアース付きプラグの場合は、本機も必ず接地(アース)してください。

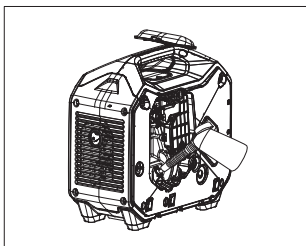
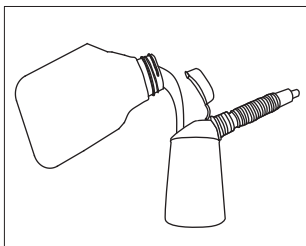
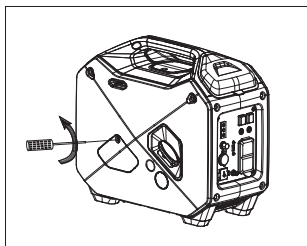


アース端子

# 運転前の準備

## エンジンオイルの給油

1. オイルメンテナンスカバーのネジをゆるめて取り外します。
2. 付属のオイルジョッキのフタを開け、エンジンオイルを注ぎます。  
注意：本機のエンジンオイル規定量が550mlで、付属のオイルジョッキの容量が220mlなので、200ml ■ 200ml ■ 150mlとの3回に分けて注いでご使用ください。
3. オイルプラグを外して、オイルジョッキのノズルをオイル給油口に差し込み、エンジンオイルを規定量給油します。
4. 給油したらオイルプラグを取り付け、確実に締め付けます。オイルメンテナンスカバーを取り付けます。

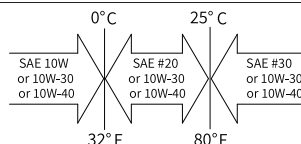


### 推奨オイル：

4サイクル用エンジンオイル

SAE10W-30もしくは10W-40API分類SE級以上

エンジンオイル規定量：0.55L (550ml)



## 警告

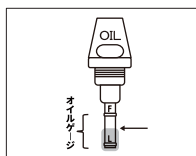
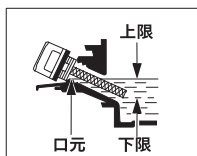


禁止

・エンジンオイルを規定量以上に給油しないでください。エンジンが停止する、白煙が出るなど、不調の原因となります。

## エンジンオイルの量の確認

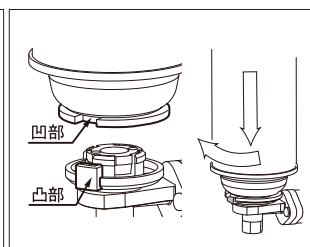
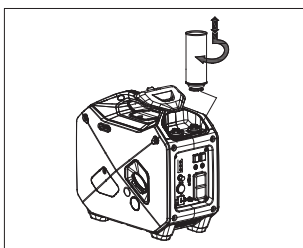
1. 平坦な場所に発電機を止め、左側の防護カバーを外します。
2. オイルゲージを引き抜き、一度ウエスで拭き取ります。
3. オイルゲージを差し込んで（注入口からオイルゲージをねじ込まないで）から引き抜き、エンジンオイルが附着している部分の範囲で残量を確認します。
4. オイルレベルゲージには「F」「L」という文字などの印がついており、エンジンオイルが両者の間に附着していれば適正量です。



# 運転前の準備

## カセットボンベの取付け

- 1.カセットボンベをよく振って残量を確認します。振った際に「サラサラ」と音がしない場合は新しいカセットボンベに交換してください。
- 2.カセットボンベの専用キャップを取り外し、本機のカセットボンベホルダーキャップを開けます。
- 3.カセットボンベの先端を下に向けて本機のカセットボンベホルダーに挿入し、カセットボンベの切り込み凹部と本機のボンベ受けガイド凸部がきちんとはまるようにセットします。
- 4.カセットボンベを押し込み、カセットボンベの切り込み凹部と発電機のボンベ受けガイド凸部を密着させ、押したままカセットボンベを時計回りに回します。



### カセットボンベについて:

カセットボンベは、「イワタニカセットガス」(ただしパワーゴールド、ジュニアは除く)の表示のある専用容器(LPGボンベ)を使用してください。他の容器(LPGボンベ)を使用するとガスが漏れたり、正常な使用ができない場合があります。



### ⚠ 注意



禁止

- ・カセットボンベの取り付け、取り外しを行う際やカセットボンベの付近ではタバコを吸ったり、火や火花などの火気を近づけたりしないでください。
- ・カセットボンベを40℃以上になる場所や車、炎天下に置かないでください。カセットボンベが爆発して死傷事故を引き起こす原因になり危険です。



指示

- ・カセットボンベに記載されている警告内容をよく読んでから使用してください。
- ・カセットボンベはエンジンを止めてから交換してください。
- ・本機を使用しない場合は、カセットボンベを取り出してください。
- ・カセットボンベは本機に正しくセットしてください。正しくセットされていないとガス漏れを起こす原因になり危険です。
- ・カセットボンベを取り付ける際は、カセットボンベ差し込み口にゴミや異物が付着していないことを確認してください。

# 運転前の準備

## カセットボンベ外付け用ソケットの取付け

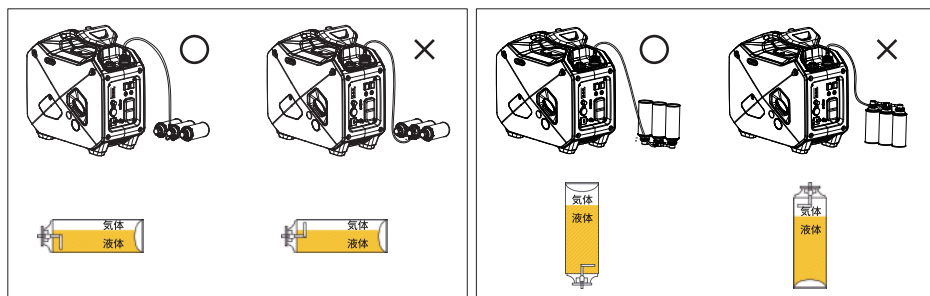
弊社のカセットボンベ外付け用ソケット（別売り）を使用すれば、1つのカセットボンベホルダーで3本のカセットボンベを接続し同時に供することができます。

### 取付け方法：

- 1.カセットボンベをよく振って残量を確認します。振った際に「サラサラ」と音がしない場合は新しいカセットボンベに交換してください。
- 2.カセットボンベの専用キャップを取り外し、カセットボンベの先端をカセットボンベ外付け用ソケットの容器側ソケットに挿入します。カセットボンベの切り込み凹部と容器側ソケットの受けガイド凸部を合わせ、押し込みながら時計回りに回して装着します。
- 3.カセットボンベ外付け用ソケットの機器側ソケットの切り込み凹部と本機の受けガイド凸部を合わせ、押し込みながら時計回りに回して装着します。

### 設置方法：

本機は液体ガス（生ガス）を気化させエンジンに供給させるキャブレター（気化器）が備えています。カセットボンベを最後まで使い切るために、カセットボンベ外付け用ソケットで本機と接続する場合は、カセットボンベの切れ込みを下にしてください。なお、卓上カセットコンロなどのガス器具と接続する際には、カセットボンベの切れ込みを必ず上にして使用してください。



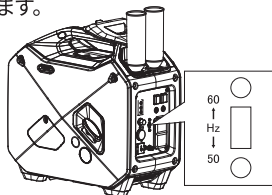
## 本機周辺の点検

- ・周囲に火の気や可燃物および危険物がありませんか。
- ・風通しは良いですか、また換気は十分ですか。
- ・傾斜地で使用していませんか。
- ・使用場所が小石、土、砂利等で凸凹していたり、やわらかい場所で使用していませんか。やむを得ず使用する場合は、本機の下に板などを敷いて本機を安定させてください。
- ・建物および他の設置物から1m以上離れていますか。また、排気口および吸気口は風通しの良い、広い場所に向けてありますか。
- ・雨や水などが本機にかかっていませんか。

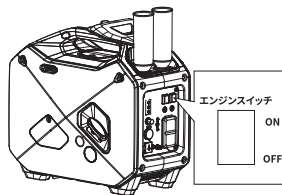
# 発電機のかけ方

## エンジンの起動

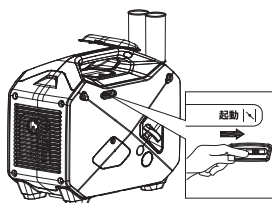
1. 接続する電気機器に合わせて周波数を切り替えます。



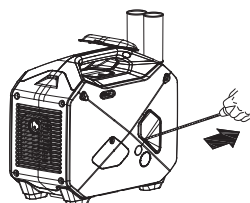
2. エンジンスイッチを[ON]の位置にします。



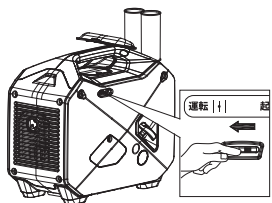
3. チョークレバーを[起動]の位置にします。ただしエンジンが暖まった後の再始動時や環境温度が高い時は直接[運転]の位置にします。



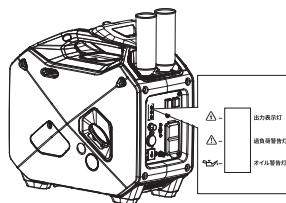
4. リコイルスターターグリップを軽く引き出し、重くなった状態から勢いよく引き、エンジンを起動させます。リコイルスターターグリップは手を添えてゆっくりと元に戻してください。



5. 起動後エンジンの回転が安定したら、チョークレバーを[運転]の位置にします。



6. 出力表示ランプ（緑色）が点灯していることを確認します。



## エンジンの停止

1. 電気器具のスイッチをOFFにします。電気器具のプラグをコンセントから抜きます。
2. エンジンスイッチを[OFF]の位置にしてエンジンを停止します。

# 電気の取り出し方

## ⚠ 注意



### 指示

- 本機の使用可能外気温は5°C～40°Cとなります。燃料(液化ブタン)性質上、5°C未満では起動できない場合があります。
- リコイルスターターグリップは勢いよく引いてください。始動時のエンジン回転が速くなると、点火火花が飛びエンジンがかかります。エンジン回転が遅いとエンジンがかからないことがあります。
- リコイルスターターハンドルを数回引いてエンジンが始動しない時は、マルチスイッチを[運転]の位置にし、再度起動を試みてください。

## AC電源 100V

1. 周波数切換スイッチを接続する電気機器の周波数に合わせます。
  2. 発電機に接続する電気機器を大地にアースした場合は、発電機の本体も必ずアースしてください。
  3. 「発電機のかげ方」に従ってエンジンを始動します。
  4. 接続する電気機器のスイッチが切れていることを確認し、ACコンセントへ電気機器のプラグを確実に差込みます。
  5. 電気機器のスイッチを入れます。正常運転(定格負荷)でご使用の場合は、出力表示ランプ(緑)が点灯し続けます。
  6. 過負荷運転や使用電気機器が異常を起こした場合は、出力表示灯(緑)が消え、過負荷警告ランプ(赤)が点灯し続け、電気が取出せなくなります。
- この場合、電気機器のプラグを取り外してください。そして、エンジンを一旦停止させてからエンジンを再始動することで、出力表示ランプ(緑)が点灯し電気の供給が再開されます。

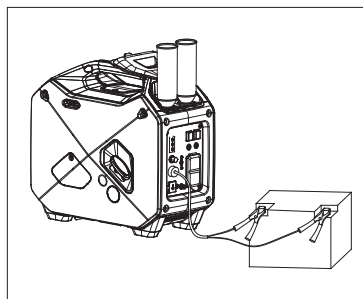
## DC電源 12V

### 車載用電気機器に給電する場合:

1. 「発電機のかげ方」に従ってエンジンを始動します。
2. 接続する車載用電気機器のスイッチが切れていることを確認し、シガーソケットへ車載用電気機器のプラグを確実に差込みます。
3. 車載用電気機器のスイッチを入れます。正常運転(定格負荷以内)でご使用の場合は、出力表示ランプ(緑)が点灯し続けます。

### 車バッテリーに充電する場合:

1. シガーソケットにバッテリー充電用コードを接続します。
  2. 12Vバッテリーにワニ口クリップを接続します。
- 注意: ワニ口クリップの赤が+、黒が-です。+と-の極性を間違わないで接続してください。
3. 「発電機のかげ方」に従ってエンジンを始動します。
  4. 正常運転(定格負荷以内)でご使用の場合は、出力表示ランプ(緑)が点灯し続けます。
- 注意: 充電時間はバッテリーの放電時間によって異なりますので、比重計でバッテリー液の比重をチェックしながら充電してください。バッテリー液の比重が1.26～1.28になれば充電完了です。



# 電気の取り出し方

## USB電源 5V

- 1.「発電機のかげ方」に従ってエンジンを始動します。
- 2.USB機器のケーブルをUSBポートに差し込みます。

### ⚠ 注意



禁止

- ・濡れた手で出力コンセントを触らないでください。
- ・電気器具の合計負荷(交流、直流の合計)が発電機の取り出し可能範囲を超えた過負荷で使用しないでください。発電機損傷の原因となります。



指示

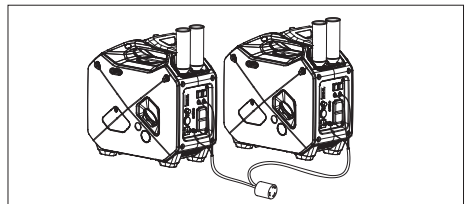
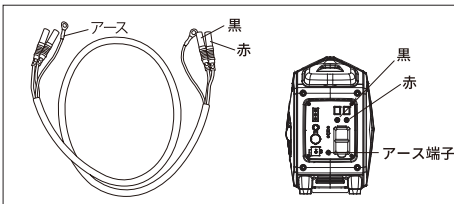
- ・精密機器・電子制御機器・パソコン・電子計算機・マイコン付機器および充電器類への使用は、発電機のエンジンノイズ(原動機雑音)の影響を受けない距離を確保してください。また、近くにある他の電気製品がエンジンノイズ(原動機雑音)に影響されないことを確認してください。
- ・医療機器への使用は、事前に医療機器会社・医師・病院などに確認の上ご使用ください。
- ・電気工具類・汎用モーター類の一部には、取り出し可能範囲が上記表内の数値内でも起動電流が大きすぎて使用できないことがあります。この場合は電気器具メーカーにご相談ください。

## 並列運転

- 1.並列運転コード(別売り)をそれぞれの発電機の並列運転端子に接続し、アース端子にアース線を接続します。

ご注意:並列運転コードに黒帯がある方を黒色(左側)の並列運転端子に、並列運転コードに赤帯がある方を赤色(右側)の並列運転端子に差し込んでください。

- 2.それぞれの発電機の周波数切替スイッチを接続する電気機器の周波数に合わせます。
- 3.「発電機のかげ方」に従ってそれぞれのエンジンを起動します。
- 4.電気機器のスイッチが切れていることを確認し、並列運転コードのコンセントに電気機器のプラグを差し込みます。
- 5.電気機器のスイッチを入れます。正常運転でご使用の場合は、二つの発電機の出力表示ランプ(緑)が点灯し続けます。



### ⚠ 注意



指示

- ・並列運転時出力=1台あたり定格出力x台数x0.9
- ・アース線は、使用する電気機器をアースする場合において、本機それぞれのアース端子に接続してください。
- ・並列運転コードは、エンジン始動前に接続し、エンジン停止後に外してください。

# 点検・整備の仕方

## 定期点検表

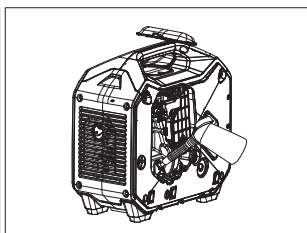
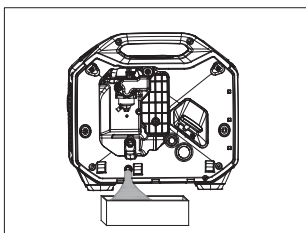
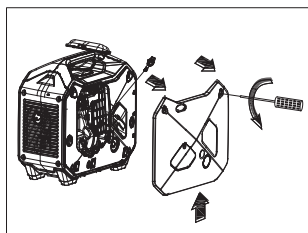
対象部品	点検項目	始業点検	初回の1ヶ月後 または 20時間 運転後	3ヶ月毎 または 50時間 運転毎	6ヶ月毎 または 100時間 運転毎	12ヶ月毎 または 200時間 運転毎
エンジンオイル	・量の点検	●				
	・交換		●※1		●	
カセットボンベ	・量、漏れの点検	●				
エアクリナー	・損傷、劣化の目視と 指触による点検	●				
	・清掃			●※2		
点火プラグ	・点検と清掃				●	
	・交換					●
マフラーキャップ	・清掃				●※2	
外装	・取り付けボルトのゆる み確認			●		

※1 初回のみ、1ヶ月後または20時間運転後にオイル交換を行ってください。

※2 ほこりの多い場所で作業した場合は、定期点検時期より早めに点検を行ってください。

## エンジンオイルの交換

1. エンジンを始動し、2～3分暖気運転をしてから停止します。エンジンオイルが排出しやすくなります。
2. 排出するエンジンオイルを受け取る容器を用意します。
3. 左側の防護カバー上部のネジ(2カ所)をゆるめて、手前に引いて取り外します。
4. オイルプラグを外します。
5. 発電機本体を傾けてエンジンオイルを抜きます。
6. 付属のオイルジョッキを利用して、エンジンオイルを規定量給油します。
7. 給油したらオイルプラグを取り付け、確実に締め付けます。左側の防護カバーを取り付けます。

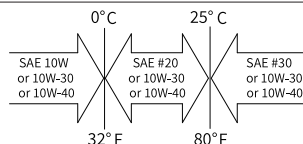


### 推奨オイル:

4サイクル用エンジンオイル

SAE10W-30もしくは10W-40API分類SE級以上

**エンジンオイル規定量: 0.55L(550ml)**

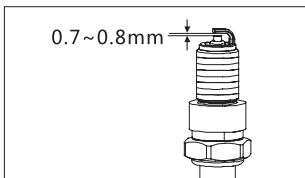
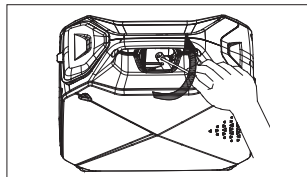




# 点検・整備の仕方

## 点火プラグの点検と清掃

1. 点火プラグメンテナンスカバーのネジをゆるめて取外します。
2. 点火プラグキャップを点火プラグより外します。
3. プラグレンチハンドル、プラグレンチで点火プラグを取外します。



4. スパークプラグの焼け具合を点検します。電極付近は通常キツネ色に焼けますが、黒くくすぶっていたり白く焼けていたときはパーツクリーナーまたはワイヤーブラシで汚れ(カーボン)を落とします。
5. 電極のすき間を確認し、下記寸法になっていない場合は調整します。  
指定点火プラグ:A5RTC (TORCH)/CR5HSB (NGK)  
電極のすき間:0.7~0.8mm
6. 取り付けはまず手で一杯までねじ込み、次にプラグレンチで確実に締付けます。
7. 点火プラグキャップを点火プラグに確実に取付けます。
8. 点火プラグメンテナンスカバーを取付けます。

## ⚠ 注意

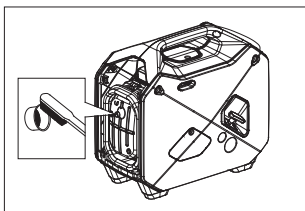
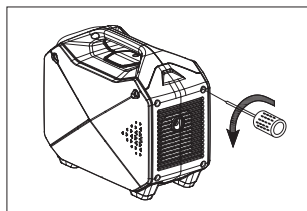


指示

・やけどをしないよう、作業はエンジンが冷えてから行ってください。エンジン停止直後のエンジン本体やマフラー、点火プラグなどは非常に熱くなっています。

## マフラーキャップの清掃

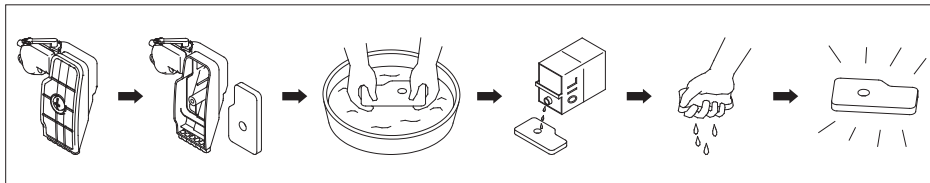
1. マフラーカバーのボルト(4カ所)をゆるめて取り外します。
2. マフラーキャップを取り外します。
3. ワイヤーブラシ(市販品)を使用してマフラーキャップの汚れを取り除きます。
4. マフラーキャップを取付けます。
5. マフラーカバーとボルトを元に戻します。



# 点検・整備の仕方

## エアクリーナエレメントの清掃

1. 左側の防護カバー上部のネジ(2カ所)をゆるめて、手前に引いて取り外します。
2. スクリューをゆるめて、エレメント(空気ろ過部)を取り外します。
3. きれいな灯油でエレメントを洗浄します。洗浄後、エレメントを布で包み押しつぶすようにしぼります。
4. エレメントをエンジンオイルにひたし、押しつぶすようにしぼります。オイルが垂れない程度に余分なオイルを取り除いてください。
5. エレメントをエアクリーナ本体にはめ込みます。エアクリーナカバーを元の位置に戻し、スクリューを締め付けます。
6. 左側の防護カバーを取り付けます。



### ⚠ 警告



禁止

・洗った油は引火しやすいので、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。火災の原因になります。

### ⚠ 注意



禁止



・エレメントは絶対にきつく絞らないでください。破れてエンジンが不調になることがあります。

・エレメントを取り付けていない状態ではエンジンを絶対に始動させないでください。ピストンやシリンダーの摩耗の原因になります。



指示

・エアクリーナーが目詰まりすると出力不足や燃料消費が多くなるので、ほこりの多い場所で使用した場合は、定期点検時期より早めに清掃してください。

# 運搬・保管の仕方

## 運搬の場合

本機を自動車やトラックなどの車両で運搬する場合は、次項を守ってください。

1. エンジンスイッチを「OFF」の位置にします。
2. カセットボンベを取り出し、専用のキャップを取り付けます。
3. 本機カセットボンベホルダーのキャップを取り付けます。
4. 本機をロープなどで確実に固定します。

## 警告



禁止

- ・カセットボンベを本機に取り付けたまま運搬しないでください。振動や衝撃などでガスが漏れ出し、事故の原因になる恐れがあります。
- ・カセットボンベを40°C以上になる場所に置かないでください。
- ・カセットボンベは熱を持つものの側に置かないでください。
- ・発電機の上に重い物を置かないでください。



指示

- ・本機が移動、横倒、落下、破損などしないような位置に積載してください。特に横倒したまま運搬すると、エンジンがかからなくなるなど、エンジン故障の原因となります。

## 一時保管の場合

1. エンジンスイッチを[OFF]の位置にしてエンジンを停止します。
2. カセットボンベをカセットボンベホルダーから取り出します。
3. そのままの状態でも再始動し、無負荷運転（電気機器は接続しない）を行ってまます。
4. エンジンが「ガス欠状態」で停止するまで待ちます。ガス経路内のガス残量によって「ガス欠状態」になるまでの時間は変わります。
5. エンジンスイッチを[OFF]の位置にします。
6. 室内で湿気が少なく換気の良い場所に保管します。

## 長期保管の場合

1. 「一時保管」の1～5の作業を行います。
2. 点火プラグを外し、プラグ孔からエンジンオイルを3～5mL給油します。
3. リコイルスターターグリップを2～3回ゆくりと引いた後、点火プラグを取り付けます。
4. リコイルスターターグリップを引き、重くなった状態（圧縮状態）にします。
5. 各部の水、ほこりなどの汚れをきれいに清掃します。
6. 発電機にカバーを掛け、室内で湿気が少なく換気の良い場所に保管します。

## 注意



指示

- ・使用後または定期運転後、次の使用が3ヶ月以降になる場合は「一時保管」を、それ以上長期に渡って使用しない場合は「長期保管」を行ってください。これを行わないと、故障の原因となります。
- ・カセットボンベを保管する場合は、本機から取り出して専用のキャップを付け、風通しが良く湿気の少ない、室温40°C未満の場所に置いてください。

# 不具合時の対応

故障は行き届いた点検整備により未然に防ぐことができます。故障の多くは、取扱いの不慣れや不十分な点検に起因しています。まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常がある場合はむやみに分解しないで買い上げの販売店にお問い合わせください。

症状	考えられる原因	処置	参照ページ	
エンジンが 始動しない	カセットボンベが空になっている	カセットボンベを交換する	8ページ	
	オイル警告ランプ(赤)が点灯している→エンジンオイルが入っていない、量が少ない	エンジンオイルを給油する	7ページ	
	エンジンスイッチがOFFになっている	ONにする	10ページ	
	エンジンのかけ方に不足などがある	正しいかけ方を再確認する	10ページ	
	チョークレバーの位置調整	エンジンが温まっている場合や夏期は「運転」		10ページ
		エンジンが冷えている場合や冬期は「始動」		10ページ
	エアクリナーの汚れ	エアクリナーの清掃	15ページ	
	点火プラグかぶり、汚れ、破損	点検・清掃・交換	14ページ	
	本機が傾いている → オイルアラート機構の作動	本機周辺を点検する、水平にする	9ページ	
外気温度が低い	使用温度範囲：外気温5～40°C	/		
エンジンが 数分動いた 後止まる	チョークレバーの位置調整	起動後、チョークレバーを「運転」の位置にする	10ページ	
	暖気運転が足りない	暖気運転を行う	10ページ	
	複数の電気機器を使用するなど急に大きな電気を取り出した	電気を少しずつ取り出す	11ページ	
	点火プラグの劣化	点火プラグの点検・交換	14ページ	
	エアクリナーの汚れ	エアクリナーの清掃	15ページ	
マフラーから 白煙が出る	エンジンオイルの入れ過ぎ	エンジンオイルを排出して規定量を注入する	7ページ	
	SA級など、指定以外のエンジンオイルを使用する	指定のエンジンオイルを使用する	7ページ	
電気が取り 出せない	過負荷警告ランプ(赤)が点灯・点滅、出力ランプが消灯する	過負荷の原因または使用器具の異常を改善する	11ページ	
	水中ポンプ、コンプレッサーなど、起動時に大電流が流れる電気機器を使用	エコモードをOFFにする	11ページ	
	シートをかぶせている、または屋内で使用するなどして本機の温度が高くなっている	本機周辺を点検する、または屋外で使用する	9ページ	

# 仕様諸元

機種	GS1800i-B	発電部型式	多極界磁回転型
相数	単相	力率	1
交流(AC)	定格出力	1.3kVA	
	定格電圧	100V	
	定格電流	13A	
	定格周波数(切替式)	50Hz/60Hz	
直流(DC)	定格電圧	12V	
	定格電流	4A	
直流(USB)	定格電圧(USB-A)	5V	
	定格電流(USB-A)	1A/2.1A	
装備	交流過電流保護装置	電子式	
	交流過熱保護装置	電子式	
エンジン	エンジン種類	空冷4ストロークOHVエンジン	
	総排気量	74.6cc	
	使用燃料	液化ブタン(カセットボンベ)	
	点火プラグ	A5RTC (TORCH) CR5HSB (NGK)	
	エンジンオイル	4 サイクル用エンジンオイル SAE10W-30もしくは10W-40API分類SE級以上	
	エンジンオイル規定量	0.55L	
燃料タンク容量	カセットボンベ×2本(増設可能)		
連続運転時間	定格連続運転時:約50min(0.83h)※1 1/4 負荷連続運転時:約80min(1.33h)※2		
騒音レベル(7m)	59dB※3		
始動方式	リコイル式		
使用環境温度	5°C~40°C		
寸法(全長×全幅×全高)	47.3×26.3×41.3cm		
乾燥重量	16kg		

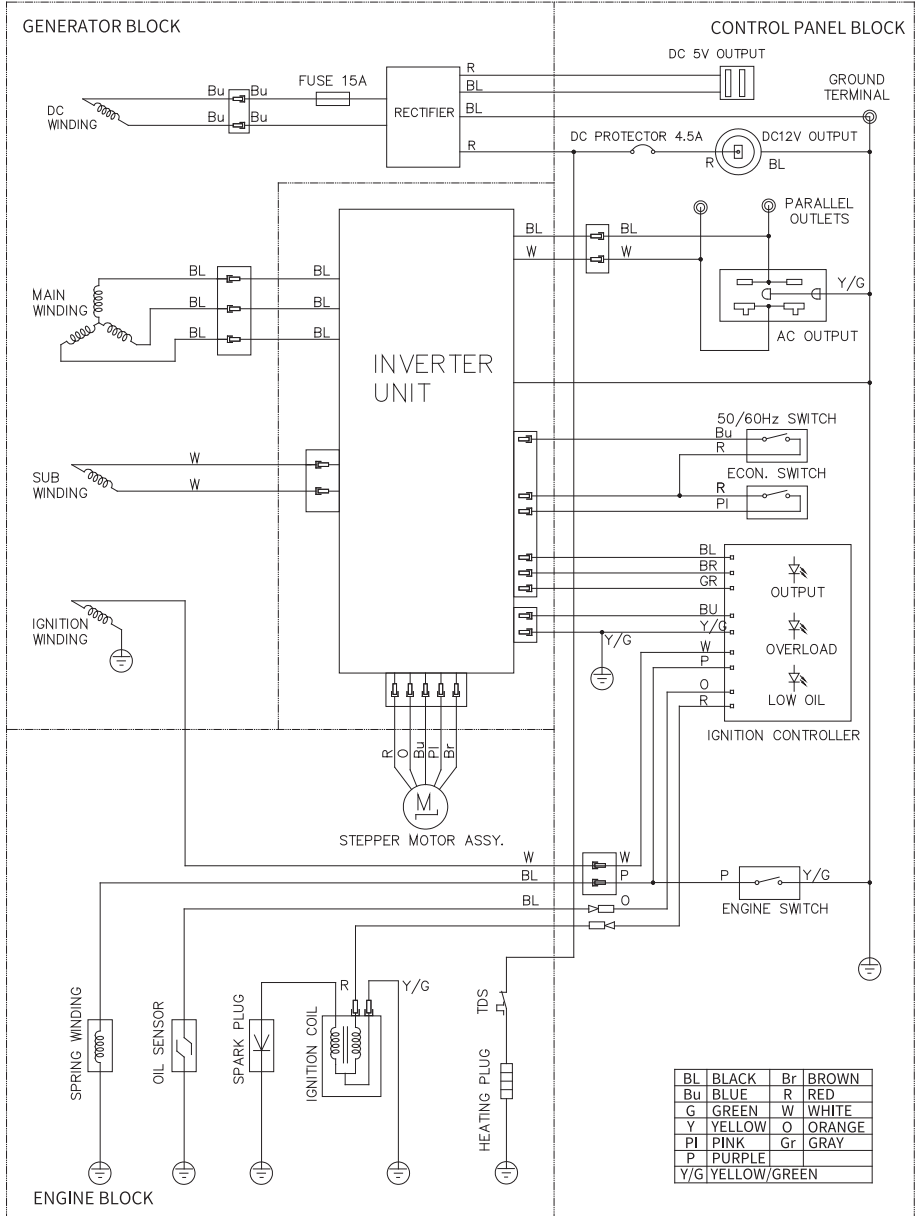
この仕様諸元は改良のため予告なしに変更することがあります。

※1:カセットボンベを2本セットする時

※2:カセットボンベを2本セットする、エコモード ON 時

※3:仕様諸元表に表示した騒音値は、エコモード ON(作動中)時で、機側7m、四方向の算術平均値です。異なる環境下での騒音はこの数値と変わる場合があります。

# 配線図



# 保証期間およびお問い合わせ

- ・本製品の保証期間はご購入より一年間となります。
- ・本製品の仕様は予告なしに変更する場合があります。予めご了承ください。
- ・本製品は使用電子部品の製造中止で、生産及び販売終了となる場合があります。予めご了承ください。
- ・お問い合わせの際、お客様へ確実に迅速に対応させていただくため、あらかじめ下記の事項をご確認の上、ご連絡ください。

①商品名

②ご購入先及びご注文番号

③故障の状況(できるだけ詳しくご説明ください。メールでお問い合わせいただいた場合は不具合症状に関する写真または動画を添付いただくと幸いです)

・ご不明な点や故障に関するご相談は、ご購入の販売店、または下記営業窓口にお問い合わせください。

## メールアドレス



support@eenour.com

## 電話窓口



サポート:050-4560-1166

公式サイト:050-4560-1179

受付時間:10:00-13:00、14:30-18:30

(土・日曜、祝祭日・年末年始および当社指定休業日は除く)

輸入総発売元: 株式会社MK JAPAN

# 保証書

本保証書は再発行いたしません。大切に保管してください。

## 保証書

品名	EENOURインバーター発電機
品番	GS1800i-B
購入日	年 月 日
保証期間	上記ご購入日より1年間（消耗品を除く）
お客様	ご住所 〒 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> - <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>
	電話 (        )
	お名前 ----- 様

- 取扱説明書、注意事項などにしたがって正常な使用状態で故障した場合に限りです。
- 保証期間内に前項に該当する故障が発生した場合に限りです。
- 消耗品に関しましては、保証対象外となります。
- 保証期間内でも次の場合は、有料修理となります。
  - \* 本書のご提示がない場合や、購入日、販売店名の記載がない場合。
  - \* 使用上の誤り、他店・個人での修理、分解、改造、調整による故障等。
  - \* お買い上げ後の移動、落下、天災地変、異常電圧による故障。
- 保証書の発行により、ご購入者の法律上の権利を制限するものではありません。

### 免責事項

法律上の請求の原因の種類を問わずいかなる場合においても、本製品の使用または、使用不能から生ずる直接損害、間接損害（事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失等）、特別損害、付随的損害、経済的拡大被害（逸失した利益、ビジネス上の収益、信用あるいは節約すべきし費用を含む）、他の機器や部品に対するデータの損失または損害、第三者からの賠償請求に基づく損害、身体障害（身体障害に起因する死亡及び怪我を含む）に関して、弊社は一切の責任を負わないものとさせていただきます。